

プログラム

劇映画 大澤 豊 監督作品

いのちの山河

日本の青空Ⅱ



タイムテーブル(予定)

①	2:00~2:10	大澤 豊監督のごあいさつ
	2:10~4:10	映画「いのちの山河」上映
②	6:00~6:10	大澤 豊監督のごあいさつ
	6:10~8:10	映画「いのちの山河」上映

2009年**10月17日(土)**
秋川キララホール

主催:あきる野「いのちの山河」上映会

後援:あきる野市教育委員会/あきる野市/日の出町



「日本の青空」につづく平和憲法シリーズ第2弾

今度のテーマは憲法第25条

「いのちの山河～日本の青空Ⅱ～」

監督:大澤 豊/脚本:宮負秀夫・大澤 豊/企画・製作小室酷充
原作:「村長ありき」「沢内村奮戦記」及川和男
映画「日本の青空Ⅱ」製作委員会

企画意図

後期高齢者医療制度をはじめ、格差社会、ワーキングプア、孤独死、少子化など現代の様々な『いのち』の問題を考えると、いま一度、憲法25条の精神を問い直し、活かしていく必要があるのではないのでしょうか。ひとり一人のいのちを守ることと、平和な社会を実現していくことは、まさに車の両輪なのです。「いのちの山河～日本の青空Ⅱ～」は、山あいの小さな村＝沢内村の人々が、苦難に立ち向かい、憲法25条の精神によって力を合わせ打開していく姿を描くことにより、人間の『いのち』の大切さを訴え、現代から未来への希望を見出せる作品をめざしています。



沢内村病院
(現 西和賀町立病院)



西和賀町医療施設

日本国憲法 第25条

1. すべて国民は、健康で文化的な最低限度の生活を営む権利がある。
2. 国は、全ての生活部面について、社会福祉、社会保障及び公衆衛生の向上及び増進に努めなければならない。

演出にあたって 大澤豊監督



「日本の青空」の上映成功を願って全国行脚をした際、多くの会場で「早く次の作品を作ってほしい」という要望があった。映画の作り手としては望外の歓びであり、そのエールに押されて企画したのが今回の『沢内村』に材をとった作品である。衆知のように岩手県の寒村『沢内村』は「自分たちで生命を守った村」であり深澤晟雄村長のリーダーシップのもとに、村民総ぐるみで半ば諦めていた『豪雪・多病・貧困』という三悪に立ち向かい見事に克服した村である。人間の生命に格差があってはならないと、誰もが「健やかに生まれ、育ち、老いる」理念をもった『生命行政』に徹した深澤村政は、全国の地方自治体で初めて60歳以上の村民と乳児の医療費を無料化、やがて全国初の乳児死亡率『ゼロ』の偉業を達成する。多くの国民が怒り、廃止を求めている「後期高齢者医療制度」が、いかに非人間的な老人いじめの制度であるかが判るような、国民の生存権を保証している憲法第25条の輝きが増すような、そんな映画にしたいと思っている。

資料

☆深澤晟雄（ふかざわ まさお）村長略歴



1905年 12月11日、岩手県和賀郡沢内村（現・西和賀町）に生まれる。一関中学校、第二高等学校（旧制）理科を経て東北帝国大学法文学部卒業。

上海銀行、台湾総督府、満州拓殖公社、などで勤務

1946年 敗戦後、沢内村に戻り、農業に従事。青年会の学習講座で憲法を担当。平和と民主主義の尊さを説く。

1954年 高校の英語講師を経て教育長に就任。

1957年 第18代沢内村長に当選。

1960年 全国に先駆け、老人(60歳以上)と乳児の医療無料化を実施する。

1962年 全国初の乳児死亡ゼロを達成。全国から注目を浴びる。

1965年 1月28日逝去（享年59歳）

深澤語録集

- ◆広報活動は村づくりのビタミン剤であり、民主主義の栄養素である。
【1955(昭和 30)年、「広報さわうち」創刊号で編集長(教育長時代)の創刊の言葉】
- ◆私たちははげしく戦争を呪います。人を殺して得られる幸せなど断じてあり得ません。最大の人間苦をもたらす最大のものは戦争であります。
【1957(昭和 32)年、戦没者追悼式の挨拶で】
- ◆本来は国民の生命を守るのは国の責任です。しかし、国がやらないのなら私がやりましょう。国は後からついてきますよ。
【1960(昭和 35)年、「医療費無料化は法律違反」に反論して】
- ◆生命の商品化は絶対に許されません。人間尊重・生命尊重こそが政治の基本でなければなりません。
【1961(昭和 36)年、村長選挙で有権者に訴えた言葉】
- ◆お年寄りを生産能力がないからと言って粗末にする、そういう姥捨て山のような考え方では社会の秩序は保たれません。
【1961(昭和 36)年、岩手県国保連主催の「保健活動事業夏季大学」の講演で】
- ◆人命の格差は絶対に許せない。生命健康に関する限り国家ないし自治体は格差なく平等に全住民に対し責任を持つべきである。
【1963(昭和 38)年、保健文化賞受賞時に述べた言葉】
- ◆村民が力を合わせればどんなこともできるということを立証しました。沢内村民であることに自信と誇りをもって下さい。
【1964(昭和 39)年第 1 回村民運動会開会式で～村民を前に最後の言葉となる～】

- ◆政治の中心が生命の尊厳・尊重にあることを再確認し、生命尊重のためにこそ経済開発も社会開発も必要なんだという政治原則を再認識すべきであります。

【1965(昭和 40)年 岩手放送ラジオで年頭のあいさつ。そして 1 月 28 日帰らぬ人に。】

沢内村(さわうちむら)

岩手県の内陸中部、秋田県との県境に位置する和賀郡(わがぐん)に所在していた村で、東西には 1000m 級の険しい山地があり、村はそれに挟まれた南北方向の和賀川の渓谷内にある。冬季は 2m 以上の積雪もある豪雪地帯である。2005 年に隣の湯田町と合併し、西和賀町となった。

交通:東北新幹線「北上駅」乗り換え、JR北上線「ほっとゆだ駅」下車。岩手交通バス川舟行き乗車 20 分。盛岡駅、花巻空港からタクシーで 1 時間



あきる野「いのちの山河」上映会

呼びかけ人

瀬沼辰正、平沢源司、増田忠治、村山秀子、西井千枝子

賛同団体（順不同）

あきる野9条の会

新日本婦人の会あきる野支部

日の出九条の会

青梅九条の会

福生市民九条の会

健康友の会秋川流域支部

くらしと福祉をよくするあきる野市民の会

原水爆禁止あきる野協議会

西多摩母親連絡会

あきる野温泉問題を考える会

LIVE！憲法ミュージカル 2009 昭島・西多摩実行委員会

日本国民救援会秋川流域支部

あきる野教科書ネット 21

東京土建西多摩支部

JMIU セラテック支部

羽村相互診療所

西多摩社会保障推進協議会

都教組西多摩支部あきる野地区協議会

三多摩法律事務所

会の運営

「いのちの山河～日本の青空Ⅱ～」の上映に賛同する団体と個人で「会」を組織し、呼びかけ人と事務局を置き、会議を開き、上映に必要な宣伝とチケットの普及などを行います。財政はチケットの売り上げと募金などでまかさないです。

※上映会のまとめの会議を 10 月 23 日（金）午後 2 時から市役所ロビーで行います。関係者の皆様ご出席ください。

あきる野「いのちの山河」上映会

2009.10.17

事務局 あきる野市雨間 243-5 山西 善子

電話 042-559-2737 FAX 042-550-1864

同 前田 眞敬 電話&FAX042-558-7857

メール info@a9akiruno.net

あきる野9条の会のホームページに
上映会の情報のページがあります。